

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 がんばれ、さぼうダム 」

鹿児島県 南九州市立大丸小学校 1年 <sup>すえなが</sup>末永 <sup>わこ</sup>和心

5がつに、1ねんせいから4ねんせいまでいっしょに、さぼうダムのこうじげんばのけんがくにいきました。

さぼうダムに行くのは、はじめてだったので、どんなところかなあ、おみせみたいなどころかなあとおもいました。

さぼうダムにつくと、さぎょうふくをきたおじちゃんたちが6にん、にこにこわらいながらまっ

ていました。  
「さぼうしていち」とかいてあるかんばんのまえで、おはなしをしてくれたおじさんが、  
「だれのおとうさんか、わかる。」

と、わたしにはなしかけてきました。

マスクをつけたおじさんのかおをみて、ほいくえんでいっしょのクラスだったそうたくんのおとうさんだとわかりました。

そうたくんのおとうさんにあんないされて、わたしたちは、さぼうダムのすぐちかくまであるいていきました。さぼうダムは、とてもおおきくて、どっしりしていました。

「このこうじがはじまったころに、そうたがうまれたんだよ。」

と、おじさんはおしえてくれました。あかちゃんだったわたしたちも、いまでは1ねんせい。さぼうダムのこうじというのは、ながいねんげつがかかるんだなあとおもいました。

ダムのうえのほうには、たかいきがたくさんありました。おおあめがふって、どしゃくずれがおきたり、きがたおれてきたりしたときに、このダムが、まもってくれるんだとおもったら、ちかくにいてなでなでしたくなりました。

7がつに、しずおかけんのあたみしというところで、「どせきりゅう」さいがいがおこりました。テレビのニュースで、ちゃいろのつちが、かわのようにながれてくるのをみました。そして、そのつちのかわは、はやいスピードで、いえやくるまをおしながしていきました。

あっというまに、おおきないえやくるまが、つちのなかにのみこまれていくのをみて、びっくりしました。あんなにかんたんにながされていくなんて、こわいなあとおもいました。

たくさんのひとがなくなったり、ゆくえふめいになったりして、かぞくのひとたちは、きつとかなしいだろうなあとおもいます。わたしは、だいすきなかぞくがとつぜんいなくなったら、かなしくてかなしくて、まいにちなんでいるかもしれません。

「ひなんくんれんはしていたけど、まさか、ほんとうにさいがいがおこるとはおもっていなかった。」と、インタビューされたしょうぼうだんのおじさんは、ざんねんそうにはなしていません。

さぼうダムは、わたしたちのいのちをまもるために、がんばってくれているのだとおもいます。あのさぼうダムのこうじがおわったら、またけんがくにいて、おおきなこえでおれいをいいたいです。